

わーど

第19号
2007. 10. 1

ふれあい交流 “いなみ野の里”

爽やかな風をありがとう

6カ国9人の留学生からのメッセージ

今年も8月5日から8月12日までの8日間、6カ国9人の留学生が稲美町でホームステイをし、様々な交流を行いました。たくさんの交流を重ねた留学生と行事参加者、そして、ホストファミリーの皆さんからこころ温まるメッセージが生まれました。

モンゴル



オドノ

ソブド

ホラン

ペルー



グスタボ

ブルガリア



ベロニカ

インド



ソウラブ

ニシュー

タイ



チャリン

ベトナム



タン



バーベキュー & ポットラック(一品持ち寄り)を開催!

食欲の秋がやってきました!今回は、日本語教室を受講中の在住外国人の皆さんにもお声掛けし、みんなでワイワイ言いながらバーベキューをしたいと思います。

外国人との交流に関心のある人、これから関心を持つかなと思われていらっしゃる人など、どなたでも気軽に参加できますのでお待ちしております。

- とき 10月28日(日) 11:00~14:00
- ところ 稲美中央公園バーベキューサイト
- 参加費 会員500円、非会員800円
- 備考 ※会費の他に、何か一品持ち寄ってください。(食べ物歓迎されます)
※話とか、楽しい時間の過ごし方も持ち寄ってください。
- 定員 30名程度
- 申込期限 10月22日(月)



韓国料理教室開催

6月23日(土)、鄭吉子さん(国岡)にご指導いただき、韓国家庭料理に挑戦しました。集まった15名の参加者たちは、汗をかきかき、辛くて美味しい韓国料理に舌鼓を打ちながら、キムチや韓流ドラマの話に大いに花を咲かせました。韓国への親近感がより一層強まったひと時でした。

メニューは
テンジャンチゲ(韓国式味噌鍋)
キンパ(ナムルとご飯と海苔で巻いた海苔巻き)
オイキムチ(きゅうりのキムチ)
※この3品に加え、鄭さんの手製の白菜キムチやトッポッキという餅料理をいただきました。



▲唐辛子が入っているので新陳代謝が良くなり美容にも効果有り!

韓国語講座開催

李承峰先生を講師にお招きし、7月から全12回にわたる韓国語講座を開催しました。

発音の仕方やハングルの読み方など、基本的な韓国語から熱心に学ぶ参加者。また、講義の合い間に飛び出す韓国の生活事情のお話、今まで知らない韓国を知ることができ、みなさん熱心に耳を傾けました。



▲李先生の講義に熱心に耳を傾ける参加者たち

見事な子どもたちの作品

～中国天津市から～

絵画交流を続けている天津市武清区の第八小学校から、今年も55点の作品が送られてきました。素晴らしい作品ばかりです。作品の一部は、8月の間、役場のロビーに展示しましたので、ご覧になられた方もたくさんいらっしゃると思います。少しずつではありますが、絵画を通じた交流が深まっています。

来年1月には稲美町の子どもたちの作品を送る予定です。



▲作品の一部を役場ロビーに展示しました

編集後記

今年も9人の若者が来町し、8日間の滞在中にさわやかな一陣の風を巻き起こして大学の寮へ帰って行きました。ホストファミリーの感想にあるように、「本当に刺激的で感動ある1週間」「日本語の大切さを感じました」「とても楽しかったです」「1週間の素敵な心の旅」、さまざまな多くの出会いを作ってくれました。そして、与えてくれた感動を生かしたい、伝えたい、話したいと思う気にさせてくれます。来年以降も、是非とも続けていきたいと決意をあらたにしました。(0生)

ふれあい交流“いなみ野の里”

8日間の記録

9名の留学生たちが、町内の
たくさんの方々とふれあい、交
流を深めましたのでお知らせし
ます。



8月5日(日)
対面式

▲はじめまして



▶最初の部分が難しいんだよ

8月6日(月)
老人クラブ交流



▲真剣に取り組んでいます



▲玉ねぎはすりおろすのが大変だよ

8月6日(月)
中学生交流

8月7日(火)
姫路城見学



▶真剣に聞き入っています

8月8日(水)
小学生交流



▶じゃんけんポン

老人クラブ交流 感想文
モンゴルのホランちゃんに
指導しましたが、本当に初め
てと思えないくらい上手に作
っていました。
小山 恵美子
日本のことを学ぼうとい
う姿勢が感じられて、大変有
意義だった。
沼田 典生

日本に来てからいろいろ見
学したことがある。でもこの
見学が一番おもしろかったと
思います。いなみののさとホ
ームステイ関係者の皆様は、
留学生をとても世話してく
ださりました。日本のれきし
についてもたくさん知らった。
このような満足で楽しい見学
またしたいです。
ソウラブ

中学生交流 感想文
交流会の参加で、こんなに
いろいろな国の人たちと触れ合
うことができるなんて思っ
ていませんでした。普段なら
外国人と交流する機会がない
ので、交流できて良かったです。
藤原 明穂
前回の交流ではやらなかつ
た料理という企画を加え
て取り組んだのが良かった。日
本の文化を紹介することも
できたし、相手の国のことも
理解することができた。お互
いのことを知れた今回の交流
は、自分にとってもものすこ
くよいなものでした。

小学生交流感想文
今日、留学生の人といっしょ
にゲームをしたり、習字、折り
紙などをして、他の国のこと
も分かったし、自分の国のこと
も教わられて良かったと思いま
す。
濱野 あや
今日は外国の人たちと習
字やたぐさんのゲームをして
楽しかったです。タンさんに
折り紙で舟の作り方を教え
てもらって、作るも知っていた
のでびっくりしました。たく
さんの日本のいいことを知っ
てはいいです。
小杉 樹

姫路城見学
世界中有名なじょう(城)
を旅行してほんとうにつれ
しいです。日本の文化とか歴
史について、良い勉強になっ
たと思います。
沼田 聡子

万葉茶会 感想文
日本のことについて深く知
るつもりでいる気持ちが強く
伝わってきました。僕たちが
普段何気なく思っていること
にも興味を持っていて、こと
にも驚きました。貴重な体験が
できて良かったです。
中谷 昌彦

ふれあい交流会 感想文
大勢の人を前に、国のこと
を話したことは今回が最初
です。だから、色々なことを
話したかったですが、忘れて
しまいました。歌っているとき
皆さんに拍手してもらったの
に感心しました。いなみ町の
人は、外国のことを知ることが
できると思います。
タン
スピーチするのはすい、かん
楽しかったです。伝言ゲーム
も大変良かったです。英会話
の授業を受けているおじさん
とおばさんたちと話すのは
楽しくて、日本語の会話の練
習もちゃんとできたからうれ
しいです。スピーチのときは
緊張したけれど、お母さんの
方を見たら自信ができたの
は本当です。
リンユー



▼初めてのおにぎり



8月9日(木)
料理教室



▲おにぎりに挑戦

8月8日(水)
万葉茶会

▼お点前頂戴いたします



▶JINSAIJIJIYUKA



8月9日(木)
ふれあい交流会



▲民族衣装でハイ・チーズ

8月12日(日)
お別れ会



▶皆さんありがとうございました

8日間の日程	
8月 5日(日)	対面式・歓迎会
8月 6日(月)	老人クラブ交流 中学生交流
8月 7日(火)	姫路城見学
8月 8日(水)	小学生交流 万葉茶会
8月 9日(木)	料理教室 ふれあい交流会
8月10日(金)	フリータイム
8月11日(土)	フリータイム
8月12日(日)	お別れ会

ふれあい交流“いなみ野の里”を体験して

泰

橋田 久子
留学生 ボルバヌマス・チャリン(タイ)
愛称 チャリン



8月5日、今年もまた満面の笑顔の9名の学生たちと照りつける太陽に勝るとも劣らないエネルギーで感動的な出会いが始まりました。
今年の我が家の学生はチャリン、タイ出身の紅顔の穏やかな青年でした。彼は、我が家だけでなく、常にどなたにも優しい笑顔で相手の表情を素早く読み取り、また、場の雰囲気に対して実に上手に融合する様子は過酷で厳しい試験勉強をクリアした18歳の若者だとはとても想像できませんでした。滞在中、特に印象深かったのは「泰」の漢字に対する彼の思いです。来日の際、大学教授からイメージにあったあて字の国名を漢字で頂くのですが、「泰」は彼が自国のイメージにぴったり重なることをとても喜んでいて、自国の人々を愛し、かつ、新天地に住む人々には大きな共感の努力も決して怠らないという素晴らしい大局観に触れた時、私たちは庭の打ち水のような清々しい清涼感に浸りました。また、一週間という限られた期間ですが、毎日とても興味深い文化・習慣・語学に接せられる路傍の人との楽しい出会いをとても感謝しつつ、人々は日常生活から脱出するため旅をすると言われますが、このホームステイプログラムも私にとっては平凡な日々から脱出できる素晴らしい一週間の素敵な旅であったと思います。若者は大人の心の古里であるという言葉をかみしめながら…。

チャリン

実は稲美町への出発の前夜、私は眠れないほど「ホームステイに行くのは良かったのだろうか」と考えていた。私は昔から他人とおしゃべりしたりするのは下手だったためである。おそらく、一週間黙ったまま交流なんてできないと思っていた。もっとも、行こうと決心したのは確かに良かったけれども、ただ立派な体験をもらった訳ではなく、大勢の友人もできたのである。
素晴らしい対面式で初めてホストファミリーのお母さん、橋田久子さんに会った。その日、お孫さんのしょう君、すずちゃんもいらした。可愛い子どもたちで、大変賑やかだった。ホストファミリーのお母さん、お父さんの橋田光夫さんも非常に優しい方だった。私が日本の生活様式について質問がすれば、いつでも喜んで解説をしてくださった。さらに、豊富な日本の習慣や行事を教えてくださいました。例えば、フリーデーの金曜日、赤穂海洋科学館へ連れて行っていただいた。そこで、様々な塩作りを見学した。如何にも、海水から天然の塩をホストファミリーとともに作ってみたい。結局、私の留学生として日本のことが習え、面白かったのである。
また、私を家庭にこの一週間家族の一員として受け入れていただき、本当に大喜びだった。毎日美味しいごちそうもくださって、ありがたさは言葉にできないほどである。
ホストファミリーだけではなく、稲美町の皆さん、いなみ野の里のスタッフや学生たちや老人クラブや稲美町の各位の方などと一緒に様々なイベントを楽しんだ。詳しく説明をする訳は要らなく、皆さんはこんなに楽しかった経験を覚えているに違いない。私は草履を作ったときも、稲美中学校でインドのチキンカレーを作ったときも、美しい姫路城を訪問したときも、天満東小学校で遊んだときも、お抹茶を飲んだときも、生け花をしたときも、英会話の皆さんと出会ったときも、全部忘れられるわけには絶対にならない。
胸が圧倒的にいっぱいだからもっと適当な言い方ができない。しかし、皆さんとふれあったことは、きっと絶えず私の心の中の宝物にしている。

忘れられないカレーの味

木村 京子
留学生 マイティ・ソウラブ(インド) 愛称 ソウラブ



今回で3回目になりますが、毎年どうしようかな〜と迷い、終わってみれば今年もやって良かったと思っています。
留学生の名はソウラブ。インドから来日した18歳の男の子で、明るくてとても優しい子でした。
インドはご存知のように急成長の国で、彼は電子工学を専攻しています。「日本の技術は素晴らしい」と言っていました。言語は都市によって異なり、インド人同士でも通じないそうです。気温は40℃〜50℃と大変暑く、日本は涼しいと言うより夜はむしろ寒いらしく、寝る時はエアコンの温度を“30℃”に設定して眠るくらいです。
ところで、皆さんインド人はカレーをよく食べると聞いていませんか？私はそう思っていたので聞いてみると、特別な日しか食べないそうです。そこで、彼にインドカレーの作り方を教えてもらうことにしました。日本のカレーとはずいぶん違って、カレーには使わず、たくさんのスパイスを使います。大変美味しかったです。彼のお母さん直伝のチキンカレーのレシピを紹介しますので、作ってみてください。私にとって忘れられないカレーとなりました。

【材料】

- | | | | |
|----------|--------------|--------|--------|
| 玉ねぎ | 中2個(すりおろす) | コリアンダー | 大さじ2杯 |
| じゃがいも | 中4個(大きめの乱切り) | ターメリック | 大さじ1/4 |
| 鶏モモ肉 | 400g(1口大) | ガラムマサラ | 大さじ1/3 |
| にんにくペースト | 大さじ2杯 | チリペッパー | 大さじ1/3 |
| しょうがペースト | 大さじ2杯 | 塩 | 大さじ1杯 |
| サラダ油 | 大さじ2杯 | | |

【作り方】

1. 圧力鍋にサラダ油大さじ2杯を入れ、玉ねぎのすりおろしたものを全部入れて茶色になるまで焦がさないように炒める。
2. スパイスを全部入れて混ぜ合わせる。
3. 鶏肉とじゃがいもをいれ、5分間炒める(弱火)
4. 水を300cc入れて蓋をし、5分間煮る(強火)
5. 火を止めて10分間蒸す

ソウラブ

今週、私は木村さんの家で住んでいました。木村ファミリーは私にとっても優しくかったです。大阪外国語大学へ帰りたくないです。
今週はずっと忙しくて、とても面白くて、楽しかったです。ホームステイ日程表のとおり、委員の方々は毎日留学生を面白い場所へ連れて行ってくれました。例えば、老人クラブの方から日本の昔の靴の作り方を習った(わらじ)。私は歴史が好きだから、姫路城と万葉茶会は一番面白かった。
稲美町に来てちょっと太ったと思います。毎日お母さんは私に3回美味しい料理を作ってくれました。
中学生と木村ファミリーに私はインドのチキンカレーを作って差し上げました。私の名前を習字で書いて嬉しかった。この習字は、私の外大の友だちに見せたいです。日本へ来て火花を初めて見ました。その日、私は木村ファミリーにたくさんのプレゼントをもらった。私もプレゼントを差し上げた。一緒に焼肉のバーベキューもした。美味しかったです。忙しくて毎日私は宿題もした。関西弁も今はちょっとわかるようになった。日本語はちょっと上手になったと思います。お母さんとは何回も買い物に行った。その時、稲美町の野菜や果物の値段がわかりました。全体的に値段はインドに比べて高かったです。特にスイカの値段には大きな差がありました。神社を初めて見た私は、お賽銭を入れて志望校に合格するようにお祈りました。
私は稲美町の一週間を忘れません!!

ホストファミリーとしてソフドと過ごした思い出

敦見 将人
留学生 ツェレンフー・ソフド(モンゴル) 愛称 ソフド

20歳前後の学生さんが、故郷を離れて他国で生活し勉強することは、期待感以上に、もしかしたらという不安感の方が大きいかもしれません。実際に、日本で勉強しているということは、相当の努力をしているでしょうし、自身の気持ちが毅然としていなければいけません。私たち夫婦も、彼らとは例は違いますが、海外で生活し働いていた時は、楽しい気持ちもあるけれども一方で不安もありました。そのような経験を生かして、わずかながらでも留学生の方々のお役に立てたら嬉しいなという気持ちで、今回応募させていただきました。
実施に受け入れてみて、アジアが母国の留学生だったからなのか、わりと文化や習慣が似通っている部分もあり、特に生活面では困ったことはありませんでした。むしろ、とても謙虚な姿を見せてくれました。心配りや気遣いなど、まだ20歳とは思えない面もありました。フリータイムの日は淡路島のドライブをメインに朝から晩まで一緒に過ごし、とてもよい思い出作りができたと思います。海は生まれてから一度しか見たことがないというソフドは、この日の計画をととても楽しみにしてくださったようでした。さらに、島から出港している船に乗り、クルージングをしたらもっと喜んでくれて、そんな笑顔を見ているとこちらも嬉しくなり、連れてきて良かったなとしみじみ感じました。
今回、ソフドと一緒に生活してみて、日本語の大切さを感じました。ソフドを始めとした留学生の方々の受け入れを通して改めて感じましたが、同時に自分たち自身が反省した点でもあります。私たちは、普段我々が日常親しい仲同士で話している会話や口調が、流利的なものであったり、省略し過ぎていたり、あるいは汚い言葉で話しているのかと気が付かされました。留学生の皆さんは、日本語を学ぶ際に教科書を元に忠実に正確な言葉を習得しようとしています。「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」。最後の「話すこと」については、教科書すなわち書き言葉がお手本になっています。彼らは本の中から出てきたかのような美しいセリフを一生懸命に話そうとしています。そうすると、私たちが日常親しい仲同士で話しているセリフが、ソフドや他の留学には伝わらないことがありました。前述したように、「自分はこんなに流利的な言葉を使っていたのか、あるいは、あまりにも省略しすぎていた言葉を使っていたのか…」などと、ハッとさせられました。日頃からもっと日本語本来の丁寧で美しい言葉の確に使うなければいけないと実感しました。
また、ソフドは言葉を覚えようとする意欲以外に、一緒に生活していて、小さな疑問・素朴な疑問があれば質問してくるという好奇心旺盛な所にも感じました。異文化に接触していると思慮に感じることはたくさんあることでしょうか。わからない点を曖昧にしないで、遠慮なくしかも謙虚に質問してくれました。こちらも答えられる範囲ですが、熱心に優しく答えようと思えます。そうすると、ソフドも楽しくなるようで、さらなるコミュニケーションがとれて盛り上がりました。たまには紙面を利用し、わかりやすく説明することもあり面白かったです。
日本人であろうと、海外の人であろうと、人間の心は同じものだなと感じました。素敵だなと思う気持ちや何かが一生涯に打ち込む気持ち、辛いことがあってもそれを克服していくという向上心、などなど、国境を越えて世界は皆一緒だなと感じました。
最後になりますが、今年の夏、留学生を受け入れて、私たち家族にも一つの思い出が出来ましたし、貴重な経験をさせていただきました。もちろん、ソフドも喜んで下さったのではないかなと感じております。今後、ソフドとのふれあいはこのホームステイ限りのものではなく、これからもずっと心のふれあいを大切にしていきたいと思っています。

ソフド

まず、私は日本語がちょっと下手なので、この作文を書くこと、自分の気持ちを伝えられないかなと心配しています。でも頑張ります。
私をホームステイさせてくださった家庭は本当に良かった。自分の家にいるように、自由ないろいろなことをさせてくださった。私の日本語の勉強にも気を付けて手伝ってくださいました。
初めてのいなみ野の里に来た時、子どもたちが演奏してくれて、花束もくれて、私たちをすごく歓迎してくれました。
毎日のイベントは準備が本当に良いので、楽しく時間を過ごすことができました。
姫路城、茶道と華道は、私たちが日本文化について知るのに良い勉強の機会となりました。
他方で、私たち留学生は自分の国の習慣や文化を紹介することもできました。ホームステイさせてくださった家庭に自分の国の料理を作ってあげた時も、美味しく食べてくださったと思います。
このように、ふれあい交流“いなみ野の里”は私たち留学生にとって本当に楽しい休みの日だったと思います。
一緒に過ごす時間が一週間しかありませんでしたが、以前に出来なかった色々なことが出来るようになりました。



短い一週間

船山 忠輝
留学生 バスケス・アンヘル・グスタボ(ペルー) 愛称 グスタボ

今回、ホストファミリーをさせていただき、夏の楽しいひと時を留学生と共に過ごす機会を与えていただき感謝しています。
この度、ペルーからの留学生グスタボをホームステイに受け入れている間、ホストゲストというような対応ではなく、家族の一人が外国から帰ってきたかのように扱っていました。
夜はほぼ毎日、映画のDVDを観ていました。私は英語を勉強しているので英字幕で、グスタボは日本語を勉強のために日本語音声で。時折出てくるスペイン語、わからない英語や文化の違いを日本語、英語を使い私に説明してくれました。また、彼の知らない日本語“どんだけ〜”といった流行語を説明し、教え合いました。お互いにとって楽しい勉強になったと思います。
一週間という短い間でしたが、多くのことを知り、学びました。それ以上に、グスタボが多くのこと発見し学んでくれていて幸いです。



グスタボ

稲美町はとても親切なまちでした。私のホストファミリーは素敵に親切でした。いろいろな稲美町の場所を見物しました。とても面白かったです。
姫路城はとても大きなお城でした。姫路城の中は傾斜がとても多いので、私はとても疲れました。
私のホストファミリーはとても印象的でした。おじいさんとおばあさんとお兄さんは、いつも私のためにいろいろなことをしてくれました。その間はありがとうございました。
稲美町はとてもきれいで静かなまちです。土曜日の花火もとても良かったです。人々はとても優しくなりました。良かったです。
稲美町の皆さん、誠にありがとうございました。